

事業報告

令和4年度

福島県

県産品加工支援センター

福島県県産品加工支援センター事業報告
令和4年度

目次

1	福島県県産品加工支援センターの概要	
1-1	設置目的	1
1-2	組織	1
1-3	事業	2
2	事業実施の概要	
2-1	加工技術支援事業	3
2-2	6次化技術相談	4
2-3	広報・普及活動	4
2-4	関係機関との連携	5
2-5	加工食品放射能測定事業	5
3	各チームにおける事業実施の概要	
3-1	企画支援チーム（ハイテクプラザ会津若松技術支援センター）	6
3-2	食品加工支援チーム（ハイテクプラザ会津若松技術支援センター醸造・食品科）	6
3-3	農産物流通加工支援チーム（農業総合センター生産環境部流通加工科）	6
3-4	農産物流通加工支援チーム分室（農業総合センター農業短期大学校研修部）	6
4	加工支援センターの位置・連絡先	8

1 福島県県産品加工支援センターの概要

1-1 設置目的

福島県の豊かな農林水産資源を基盤とした新たな「食」産業創造を図るために策定された「ふくしま・地域産業6次化戦略」に基づき、県の工業系の試験研究機関である「ハイテクプラザ」と農業系の試験研究機関である「農業総合センター」が連携・協力し、食品加工や流通に関する技術相談や技術支援を通じて「地域産業6次化」を推進するために、「福島県県産品加工支援センター（以下「加工支援センター」という。）」を平成22年4月1日に設置し、令和4年度で13年が経過した。



1-2 組織

加工支援センターは、ハイテクプラザ会津若松技術支援センター内に企画支援チームと食品加工支援チーム、農業総合センター内に農産物流通加工支援チーム、また、農業総合センター農業短期大学校に同チーム分室と、県内3箇所に活動拠点を置き、3公所が連携して事業を行った。

- (1) 企画支援チーム（ハイテクプラザ会津若松技術支援センター）
食品加工・流通に関する技術支援の総合窓口を担う。
- (2) 食品加工支援チーム（ハイテクプラザ会津若松技術支援センター醸造・食品科）
食品加工関連技術に関する調査・研究及び技術支援を担う。
- (3) 農産物流通加工支援チーム（農業総合センター生産環境部流通加工科、農業総合センター農業短期大学校研修部）
食品加工・流通関連技術に関する調査・研究及び技術支援、食品加工の普及のための研修、支援を担う。

加工支援センター長はハイテクプラザ副所長（業務）、次長はハイテクプラザ会津若松技術支援センター所長及び農業総合センター生産環境部長をもって充てる。

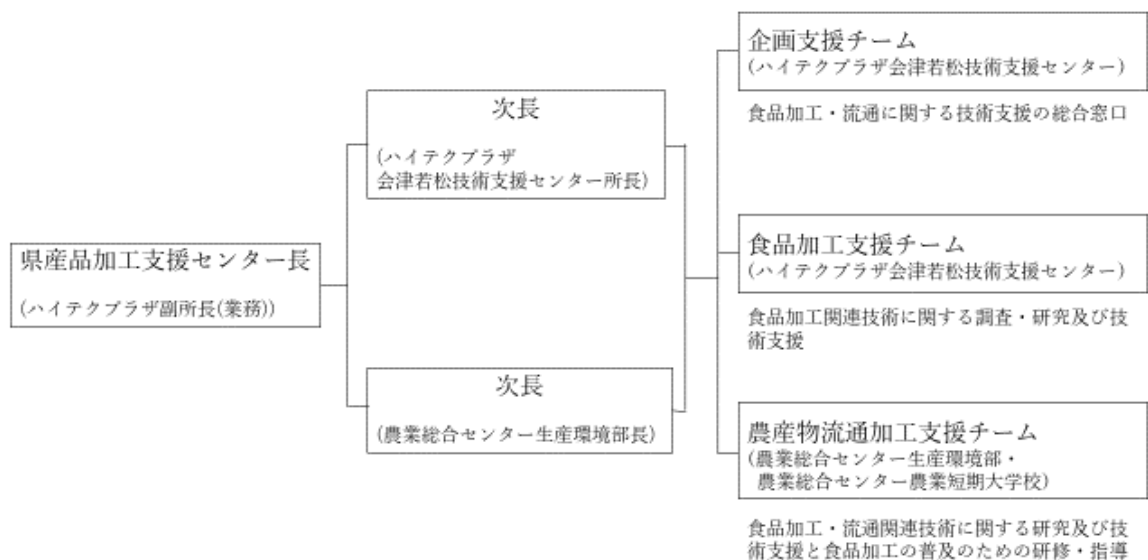


図1 県産品加工支援センター組織図

1-3 事業

加工支援センターは、食品加工等に関する次の業務を所掌し、本庁機関、各地方振興局、各農林事務所と連携を図り、効果的な食品加工・流通に関する技術支援を行った。

令和4年度も、食品加工に関する技術相談、試験・加工機器の利用、研修・セミナー、商品開発・技術移転等の活動を通して、地域の農産物が加工食品となって市場に出て行くまでの様々な支援に取り組んだ。

- (1) 技術相談に関すること
- (2) 食品加工・流通関連技術の開発及び成果普及に関すること
- (3) 加工食品の開発支援及び成果普及に関すること
- (4) 関係機関との連携コーディネートに関すること
- (5) その他、県産農林水産物を活用した「食」産業創出にかかる技術支援

2 事業実施の概要

2-1 加工技術支援事業（事業名：「技術で支える県産品加工支援事業」）

(1) 加工技術研修

企画支援チームでは、農産物流通加工支援チームが開発した技術や試験研究成果の移転や普及、加工機器の紹介のための研修を2回開催し、延べ49名が受講した（表1）。

表1 令和4年度加工技術研修の開催状況

回	開催日	研修テーマ・内容	参加者数 (人)
1	令和4年 8月4日	より安全な食品加工を目指して (1) 講義 「食品加工と衛生管理」 講師 県南保健福祉事務所食品衛生チーム 横山育史 (2) 加工機デモ リキッドフリーザー「凍眠」 講師 タニコー株式会社福島営業所 石坂一也、伊藤高典 (3) 加工施設紹介 農業短期大学校農産加工技術センター 説明 農業総合センター農業短期大学校 佐藤綾香	29
2	令和5年 3月6日	食品添加物について知ろう (1) 講演 「『食品添加物』の概要と使用例」 講師 奥野製薬工業株式会社食品営業部東京食品営業課 高山文徳氏 試験研究成果を食品加工に活かそう (2) 研究成果紹介 「福島県産あんぼ柿の品質と原料果の果皮色」 「会津地域における雪室貯蔵キャベツの機能性成分変動」 「福島県産リンゴの品種と加工品の特徴」 発表者 農産物流通加工支援チーム 横田和子、石川万里那、古川鞠子	20

(2) 企業訪問による課題解決（重点支援事業）

各農林事務所から推薦され、加工支援センター長が重点支援対象者に決定した10事業者に対し、訪問により相談内容を調査するとともに課題を抽出し、解決に向けた助言や情報提供を行った。さらに、課題解決のために技術的な支援が必要な場合には、成分分析や細菌検査等の技術支援を行った（表2）。

表2 令和4年度重点支援対象者に対する技術支援の内容（件）

技術情報提供	成分分析	細菌検査	試作
5	4	3	3

※重複あり

(3) 研修等支援活動

要請のあった団体等へ講師を派遣し、研修会等で加工支援センターの事業紹介等を行った（表3）。

表3 令和4年度講師派遣の状況

開催日	研修会名	主催	派遣講師
令和4年 8月29日	令和4年度ふくしま6次化交流会 in郡山	福島県農林水産部農林 水産総室農林企画課	企画支援チーム 政井紀恵 農産物流通加工支援チーム 横田和子 農産物流通加工支援チーム分室 佐藤綾香
9月21日	令和4年度あいづ“まるごと” ネット第1回交流会	あいづ“まるごと” ネット	企画支援チーム 政井紀恵
9月30日	しらかわ・地域産業6次化ネット ワーク交流会	しらかわ・地域産業 6次化推進協議会	企画支援チーム 政井紀恵
10月18日	令和4年度ふくしま6次化創業塾	福島県農林水産部農林 水産総室農林企画課	企画支援チーム 松本大志
11月1日	令和4年度いわき地域産業6次化 ネットワーク交流会	福島県いわき農林事務 所	企画支援チーム 松本大志
令和5年 1月27日	令和4年度ふくしま6次化交流会 in二本松	福島県農林水産部農林 水産総室農林企画課	企画支援チーム 政井紀恵
2月7日	令和4年度ふくしま6次化創業塾	福島県農林水産部農林 水産総室農林企画課	企画支援チーム 松本大志
2月8日	令和4年度あいづ“まるごと” ネット第2回交流会	あいづ“まるごと” ネット	企画支援チーム 政井紀恵
3月9日	令和4年度そうそう6次化ネット ワーク交流会	福島県相双農林事務所	企画支援チーム 松本大志

2-2 6次化技術相談

電話及び来所等による相談対応の他、現地に赴いての相談対応を行った。6次化に関する相談件数は計135件で、製品開発、問い合わせ、生産管理に関する相談割合が高かった（図2）。その他としては、技術情報、製品試験等の相談があった。

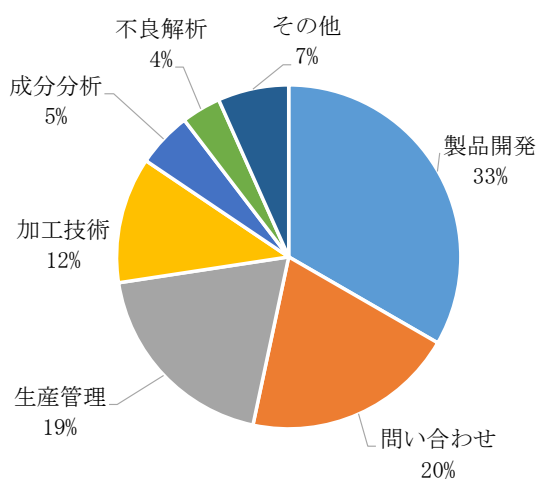


図2 令和4年度6次化に関する技術相談の内容

2-3 広報・普及活動

- (1) 重点支援事業で商品化に至った支援の事例集を作成し、ホームページ掲載等で公表した。

(2) 地方ネットワーク交流会等で支援内容を紹介した(2-1(3)参照)。

2-4 関係機関との連携

- (1) 各地方の6次化ネットワークの交流会等に参加し情報交換を図るとともに、各地方6次化ネットワーク事業の支援に協力した。
- (2) ふくしま農山漁村発イノベーションサポートセンター（ふくしま地域産業6次化サポートセンター）の企画推進員と連携して、6次化サポートセンター事業に協力した。

2-5 加工食品放射能測定事業

県内の食品加工業者等を対象とした、ゲルマニウム核種分析装置による加工食品の放射能検査を行った。

令和4年度は、延べ415検体実施した。また、放射能に関する相談（15件）にも対応した。放射性セシウム137が検出された検体は3件あったが、基準値を超える検体はなかった。

3 各チームにおける事業実施の概要

3-1 企画支援チーム（ハイテクプラザ会津若松技術支援センター）

- (1) 食品加工・流通に関する技術支援の総合窓口として、6次化に関する技術相談等の担当部署・担当者の調整業務を行った。
- (2) 加工研修の開催、重点支援事業者及び6次化事業者らへの技術支援を行った（2-1、2-2 参照）

3-2 食品加工支援チーム（ハイテクプラザ会津若松技術支援センター醸造・食品科）

(1) 福島県産ナシの加工特性の解明（科学技術調整会議共同研究事業）

県内で生産されるナシを対象に原料果の特徴や果肉及び果汁の加工特性を明らかにし、ナシ加工品開発の一助となる基礎的知見を得ることを目的として、原料果に含まれている成分や褐変特性、ジュースに加工した際の特性について試験を行った。

3-3 農産物流通加工支援チーム（農業総合センター生産環境部流通加工科）

(1) 県産農産物の加工技術の開発

県産農産物を用いた加工品（あんぼ柿、発芽玄米麴）の品質向上及び安定生産に向けた加工技術の開発や特性を明らかにした。

食品加工支援チームと共同で、ナシの加工特性等を調査した。

(2) 県産農産物の品質保持技術の開発

県産イチゴの流通拡大に資するため、日持ち性を調査するとともに、輸送時の振動が果実品質に与える影響を明らかにした。

(3) 本県農産物の機能性成分の評価と利用技術の開発

県産ブロッコリーに含まれる機能性成分等の調査及び加熱処理による成分の変化を調査した。県産アスパラガスを一次加工し、より機能性成分を維持できる方法を明らかにした。

(4) 農産物の加工及び品質保持関連の技術相談支援を行った。

3-4 農産物流通加工支援チーム分室（農業総合センター農業短期大学校研修部）

(1) 農産加工研修

農産加工に関心のある農業者等を対象に、9回の農産加工に関する集合研修を、基礎コース（春・秋）、応用コース（加工技術応用）に分けて開催した（表4）。基礎コースは営業許可と食品表示、殺菌と包装、瓶詰め・袋詰め食品、事例紹介、応用コースは加工技術応用を実施した。延べ45名が加工の基礎技術等を学んだ。

(2) 施設利用研修

6次化に取り組む農業者からの要請に応じ、随時実施した（表4）。施設を開放し、延べ9団体61名に実技支援を行った。

表4 令和4年度農産加工研修の開催状況

研修コース		内容	受講者数 (人)
農産加工研修	基礎・春コース	営業許可と食品表示 殺菌と包装 瓶詰め・袋詰め食品 事例紹介	15
農産加工研修	基礎・秋コース	営業許可と食品表示 殺菌と包装 瓶詰め・袋詰め食品 事例紹介	15
農産加工研修	応用コース	新たな商品づくり 食品の殺菌	15
施設利用研修		自主研修活動 商品開発活動	61

4 加工支援センターの位置・連絡先



企画支援チーム（ハイテクプラザ会津若松技術支援センター）

〒965-0006 会津若松市一箕町鶴賀字下柳原 88-1

電話(0242)39-2974 FAX(0242)39-0335

食品加工支援チーム（ハイテクプラザ会津若松技術支援センター醸造・食品科）

〒965-0006 会津若松市一箕町鶴賀字下柳原 88-1

電話(0242)39-2977 FAX(0242)39-0335

農産物流通加工支援チーム（農業総合センター生産環境部流通加工科）

〒963-0531 郡山市日和田町高倉字下中道 116

電話(024)958-1719 FAX(024)958-1727

農産物流通加工支援チーム分室（農業総合センター農業短期大学校研修部）

〒969-0292 西白河郡矢吹町一本木 446-1

電話(0248)42-4114 FAX(0248)44-4553